

10年後の岩手のあるべき姿を求めて

岩手県立花巻北高等学校2年 菅原 樹

10年後の2028年は、どのような世の中になっているのだろう。ヒントとなるような情報がメディアを賑わしている。その主なものは、「人口減少」「超高齢化社会」「温暖化」「AIによる労働変化」「仮想通貨中心の経済」など、想像しやすいものからそうでないものまで様々ある。私はこれらを切り口に岩手の10年後のあるべき姿を考え、高校生として大胆な提案をさせていただく。

初めに「温暖化」について。昨今の異常気象の原因の一つに「温暖化」があげられる。そのために起こる大雨や猛暑、暖冬などが岩手の経済に大きな影響を与えている。そこで、私は「寒冷地帯の岩手」からいち早く脱却し、北関東辺りの気候を軸にした産業社会を形成すれば、その損害を減らせるのではないかと考える。10年後は暖冬・猛暑の日が今以上にあるに違いない。「りんごから桃へ」くらいの意識を持ってもいいと思う。

次に、「稼ぐ岩手」と「若者が活躍する岩手」になることを提言したい。10年後は、自治体が新しくイベントを実施したり、補助金を引っ張ってきたりする人が偉い時代ではないと思う。他の県がやっていない「一番新しいもの」「利益を生み出すかどうか」などの視点を大事に考えていく。公務員には優秀な方がたくさんいらっしゃる。その方々が知恵を出し合うことができる専門の部署を立ち上げ、「利益」について考えていけるようにする。そうすることにより、自立した強い岩手県になってほしい。そして、生み出したお金は、人に使っていくようにする。日本は、これから労働力人口が激減していく時代に入っていくので、これまでのように若い人や高齢者の賃金を低く押さえようとする会社や自治体は見放されると思う。他県より労働条件のいい仕組みを作り、労働人口の流出を止めるだけでなく、他県の若者が来たくくなるような岩手県になってほしい。また、若者に魅力ある県にするための具体的な提案として、若者の「議員枠」を作ったり20代だけが所属する「若者課」を作ったりして、若者のアイデアや想像力が政治や行政でどんどん生かすことができるようにする。そのほか、選挙の投票もスマホでできるようにし、投票権が無駄になることの対策として、若者の意見を反映しやすくするといいと思う。

最後に、これらを実現していくために最も必要なこととして「意識改革」を挙げたい。

岩手県人は「まじめ」で「人に迷惑をかけない」「命令には従う」「協力する能力が高い」という長所があると思う。半面、「慎重すぎる」「自己表現が下手」「柔軟性が欠ける」ところもあるのではないだろうか。

それらを踏まえ、10年後の岩手県に必要なものは「勇気をもって一步踏み出す」実行力だと思う。失敗するかもしれないが、若者にやらせてみることには大きな価値があると思う。「成功は失敗の上に築かれる」を大切にしたい。

岩手は賊藩と言われたり大きな災害に遭ったりしたことをはじめ、何度も困難に直面してきた。しかし、それらはその都度しっかりと乗り越えてきている。未来を切り開くための失敗も恐れることはないはずである。若者が、チャレンジし、面積だけではなく、失敗も受け入れてくれる度量の大きな10年後の岩手県を夢見て、私の意見としたい。